

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・エコポイントの制度変更を控えて、テレビ、冷蔵庫などの駆け込み需要が急増している。前年を大きく上回る売上となっている。
		家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・エコポイントが12月から半減するという発表以降、驚異的な駆け込み需要がテレビ・冷蔵庫で起きている。
	やや良く なっている	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は前年を大きく上回っている。たばこの値上げ前の買い置き需要の反動も案外と早く戻りつつある。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・12月よりエコポイントが半減ということで、今月は駆け込み需要で薄型テレビがよく売れ、全体の売上を引っ張った。
		観光型ホテル（経営者）	競争相手の様子	・東北新幹線が12月4日に青森まで延長することの影響を受けて、市場の動きが活況を呈している。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・海外旅行は取扱額が前年比196%、取扱人員が前年比163%となっている。一方、国内旅行は業務性のものが弱みであることから、取扱額が前年比95%、取扱人員が前年比98%となっている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・販売実績が上がっている。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・婦人衣料の路面店の状況を見ると、9～10月に動きがみられなかった秋冬物が、11月に入り動きがみられるようになってきている。ただし、高額品の動きは弱く、リーズナブルな価格に需要が片寄っている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・実売衣料最盛期の月だったにもかかわらず、客の買い方はかなり慎重であり、様子見の客が多くみられる。また、単品買いの客も非常に目立つ。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・年度末に向かっているにもかかわらず、景気は上向きになっておらず、停滞した状況のままである。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	単価の動き	・今年の後半になってからの特徴として、1件当たりの販売量の減少や単価の低下が進んでいる。飲料関係については、高額な商品はあまり動かず、単価の低い商品がよく動いている。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・気温が高かったせいか、コートを始めとするアウターの動きが非常に悪かった。
百貨店（売場主任）		単価の動き	・9～10月と来客数が前年割れしているものの、客単価は前年並みで推移している。	
百貨店（販売促進担当）		来客数の動き	・過去3か月と比較して、来客数はあまり変わりがなく、客の購買動向についても変化が感じられない。	
百貨店（役員）		お客様の様子	・今月は家電エコポイント制度変更前の駆け込み需要で、家電製品の販売量が前年から大幅アップとなった。ただし、これは一過性のものであり、景気の良し悪しの判断基準とはできない。	
スーパー（店長）		来客数の動き	・来客数は3か月前とそう変わらず、横ばいで推移している。家庭用品は家電エコポイント制度の影響で、月後半から非常ににぎわっている。逆に、衣料品は降雪が遅かったため、冬物衣料の動きが遅れている。食料品はほぼ前年並みで推移しており、変化はみられない。店全体としては大きな変化がない状態であり、変わらない状況が続いている。	
スーパー（企画担当）		販売量の動き	・商品単価の低下は一服の感がある。既存店の来客数は前年並みであるものの、買上点数の減少から、消費に回復感がみられない。今夏の猛暑で、農作物の収量が減少しているため、客が消費に慎重な様子が見える。	
スーパー（役員）	単価の動き	・下げ止まり感のあった商品単価が、わずかではあるが、また下がっている。更に、客の平均買上点数が下がっていることから、客単価が前月から2%下がっている。家電エコポイント制度の関係で、家電に消費が流れていると言われるが、来客数が微増していることから、既存店ベースの売上はこの3か月、同じような流れで推移している。		
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・増税後、たばこ販売量が10%低下しているが、来客数は前年並みに戻ってきている。たばこの売上の減少分が、そのまま全体の売上の落ち込みとなっている。		

	コンビニ（エリア担当）	競争相手の様子	・一般店や個人商店の閉店が続出している。
	乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・車の受注量が大幅に低下している。
	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・引き続き石油製品の販売量が減少している。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・11月の取扱額は、国内旅行が前年比91%、海外旅行が前年比129%となっており、全体ではあまり変わっていない。
	旅行代理店（従業員）	単価の動き	・今月の販売状況を見ると、全体では良化しているが、客は相変わらず低価格志向であることから、売上がたまたま集中したものとみられる。
	タクシー運転手	単価の動き	・3か月前より売上は伸びているが、これは8月から実施された運賃の11.3%の値上げによる効果であり、全体の状況は相変わらず低調に推移している。
	タクシー運転手	来客数の動き	・電話注文が減少しており、来客数も前年を下回っている。特に、観光分野での減少が目立っている。
	通信会社（社員）	お客様の様子	・営業で訪問した際の断り文句が、半年ほど前も今回も同じであり、将来への期待や投資よりも今を過ごすのに精一杯な状況が続いていることがうかがえる。
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・通信機器の新規販売台数が前年並みであることから、3か月前と状況は変わらない。
	その他レジャー施設（職員）	販売量の動き	・団体での施設利用において、1人当たりの負担が4000円以上となる高額なアイテムについて、仮申込はあるが、参加者が集まらないために、利用を見送るケースが続いている。
	美容室（経営者）	お客様の様子	・客の消費の傾向が固定化してきており、決まった内容で堅実に生活をするというパターンになってきている。
	その他サービスの動向を把握できる者 [フェリー]（従業員）	来客数の動き	・観光客は減少したが、本格的な冬を迎える前に公共事業を始めとする工事が急ピッチで行われていることから、その関係者等の利用が増加している。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・住宅の取得意欲に変化がみられない。
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・不思議なことに11月に入っても、例年のように来客数が大きく減少してはいない。いつもなら来客数は10月と比べて半減するが、客の動向が変化してきている。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・暗く先の見えないニュースが多い毎日のなか、消費マインドが下がる一方であり、ただでさえ慎重な購入姿勢が更に深刻になってきている。セールに対する反応ですら下がっているのが現状である。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・今月は来街者の減少に加えて、客が買物袋を携行している姿が非常に少なかった。中心部で20日に行われたイベントにおいても、集客効果はあったが、買物袋を持って参加している客はほとんどみられず、終了後はすぐさま帰宅してしまった客が多かった。これは年末年始に向けて、買い控えをしていることとともに、先行きへの不安のため買物自体を抑制している表れとみられる。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・カード会社のイベント内容が前年と変わったこともあり、今月は前年の8割の売上とするのがやっとという状況にある。コート・ジャケットについては、11月に入って動きが出てきているものの、例年と比べて暖冬であるため、今一つ動きが厳しい。現在、ジャケット・コートは前年比90%前後で推移しており、お歳暮の早期受注も前年比95%の状況となっている。
	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・気温が高めに推移し、積雪もないため、コート・ブーツなどの防寒アイテムの動きが鈍い。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・今月の販売量は前年比94.3%と大変悪かった。生鮮ギフトが立ち上がりから不振であり、たばこも前年実績の7割にとどまった。セールを行っても全般的に盛り上がり欠く月であった。

	スーパー（店長）	単価の動き	・家電エコポイントの制度変更前の最終月ということから家電関連の動きが良かったことから、客単価は上昇しているが、食品関連や生活関連の単価低下の傾向は止まっていない。また、いまだに降雪がみられないことから、冬物衣料を中心に落ち込みがみられる。
	スーパー（役員）	販売量の動き	・お歳暮商戦が始まったが、前年の約70%の売上にとどまっている。売れる商品も希望小売価格の30%引きなどのお買い得商品や低価格商品に集中している。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月の販売台数は今まで1番厳しく、前年比50%となっている。
	その他専門店 【医薬品】（経営者）	来客数の動き	・顧客集客のイベントを行えるだけ行っているつもりだが、1～2割の来客数の減少に歯止めがかからない。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・今月の観光客の入込は特に悪く、前年比マイナス10%以上と前年を大幅に下回っており、市内の電車内でも観光客の姿を見かけない。
	高級レストラン（スタッフ）	競争相手の様子	・昼は来客数、客単価とも落ち込んでおり、夜は依然として前年を下回っている。他店では低価格のバイキングに客が列を作って並んでいる。地方のレストランは、ランチは多少混雑しているが、夕食ではかつての繁盛店もにぎわいがなくなっている。地方の屋台村では、11月上旬の金曜の夜、どの店も閑散としており、初めて見る光景に驚いた。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・レストランへの来店が減少している。イベントやフェアの集客は良いが、普段は出控え傾向にあり、苦戦している。
	タクシー運転手	販売量の動き	・毎年11月は売上が落ち込むが、今年は3か月前と比べて15%も落ちている。前年との比較ではほぼ同じ水準であったが、前年の11月と3か月前との比較では、11.5%の落ち込みであり、落ち込み幅は3.5%も大きくなっている。
	観光名所（役員）	来客数の動き	・国内からの観光入込客の動きが鈍いところに、海外についても台湾が選挙、中国・香港が尖閣問題の影響から、観光客が減少しており、今月の来客数は全体で前年割れ必至の状況にある。
	観光名所（職員）	来客数の動き	・3か月前と比べると、国内客・海外客とも減少気味である。国内客については団体客減少の影響が大きい。海外客については、台湾・マレーシアが前年並みとなったものの、その他の国が軒並み減少している。今月の来客数は、3か月前の92.5%にとどまっている。
	設計事務所（所長）	お客様の様子	・マンション、アパート、住宅とすべての動きが鈍い。
悪く なっている	一般小売店【土産】（経営者）	来客数の動き	・日本人観光客も中国人観光客も非常に少なくなっている。前年と比べて来客数が15%ほど減っており、客単価も20%ほど低下している。
	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・本州方面からのツアー客が減少しており、好調に推移していた海外客も台湾、香港を中心に伸び悩んでいる。更に、客単価の下落傾向が続いているほか、インターネットを利用した個人客の伸びも低下している。
	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・観光宿泊では、紅葉も終わり、ホワイトシーズンとの端境期ということもあり、宿泊客が減少している。また、円高・不景気感なども影響してか、例年と比べて予約状況が大幅に悪化している。消費動向をみても、エコ家電に消費が回っており、観光旅行に消費が回ってきていない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・初雪が10月末に降ったが、11月は例年より暖かい日が多く、雪の日も少なかったため、タクシーの利用客が前年より減っている。
企業 動向 関連	良くなっている	-	-
	やや良くなっている	その他サービス業【建設機械リース】（支店長）	取引先の様子
	その他非製造業【鋼材卸売】（役員）	受注量や販売量の動き	・9月頃から仕事量が増えてきたため、消耗資材を中心に販売量が増えている。また、鋼材の値上げに伴い、2次製品の値上げが相次ぎ行われ、仮需要が発生している。

変わらない	食料品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・特典商品や特売品のニーズばかりが強く、利益を確保できるような商品の受注が大きく減少している。
	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて、受注量、販売量ともに変わっていない。
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・家庭用家具は手堅く売れているが、請負物件の需要はいまだ回復していない。
	建設業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・公共建築工事の入札で、最低制限価格の設定がある場合は最低制限価格とほぼ同価格で、ない場合は限度を超えた低価格で落札されるのが恒常的となっており、採算性の有無が関係しない市況となっている。
	金融業（企画担当）	それ以外	・政策支援効果により、一部の家電製品は好調な売行きとなっている。一方、公共工事は大幅に減少している。道内には建設関連の就業者が多いことから、業績不振による賃金の抑制が消費低迷の一因となっている。
	司法書士	取引先の様子	・不動産取引が停滞気味で、建物新築においても積極性がみられない。中古の不動産が若干動いている程度であり、全体的に良くない状況が続いている。
	司法書士	取引先の様子	・新規住宅着工やマンション建設が増加する様子もなく、ハウスメーカーの土地取得も活発ではない。景気回復の兆しを感じられない状況が続いている。
やや悪くなっている	金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先や同業他社からは暇だという話をよく聞く。また、鋼材などの発注先からは注文が少なくなったという話をよく聞く。
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・製紙、飲料、医薬品、乳製品の輸送に大きな変化はみられないが、さけ・さんま等の水産品の不漁により、輸出向けコンテナの取扱が減少している。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・当社の売上の前年比をみると、3か月前に比べて悪化している。
悪くなっている	司法書士	取引先の様子	・不動産取引、建物の新築が更に低迷している。
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・中国の人件費と競争しなければならないような仕事が増えており、条件がかなり悪化している。
雇用関連	良く なっている	-	-
	やや良く なっている	職業安定所（職員）	求人数の動き
変わらない	職業安定所（職員）	求人数の動き	・管内の10月の新規求人数が前年に比べて27.6%増加し、新規求職者数は前年に比べて15.2%減少している。有効求人倍率は前年を0.11ポイント上回っており、雇用環境に明るい兆しが見られる。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人広告件数をみると、地元からの求人が微減しているものの、本州方面からの求人が微増傾向にある。ただし、全体としては、非常に変化の少ない状況にある。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人件数は前年を上回っているが、前年ほどの伸びが感じられない。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・11月の求人件数は前年比20%増と順調に推移している。建設業関連では、特にリフォーム系の業種に求人の動きがみられる。また、時期的な影響もあるが、新規開店に伴うスナック系の求人の募集も目立って増加している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・3か月前と比較すると、医療・介護分野を除けば、状況は変わっていない。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・10月の新規求人数は前年を4.6%下回り、新規求職者数は前年を9.4%下回っている。この結果、月間有効求人倍率は0.50倍となり、前年の0.39倍を0.11ポイント上回ったものの、依然として、正社員の求人が4割と少なく、非常に厳しい状況にある。

	学校 [ 大学 ] ( 就職担当 )	周辺企業の様子	・ 2011年採用を振り返り、また2012年採用の見込みに関して、企業訪問、企業の担当者の来学、また情報交流するセミナー等を介して、「新氷河期」の到来を実感する厳しい状況が伝えられている。具体的には、2011年採用において採用予定数に満たない採用実績であった企業が少なくないこと、来年においても優秀な学生にこだわった選考が維持される方針であることが挙げられる。
やや悪くなっている	人材派遣会社 ( 社員 )	求人数の動き	・ 当社においては、人材派遣数が前年並みで推移しているが、官公庁から受託している雇用対策事業で行っている求人開拓事業の様子をみると、派遣会社からの求人数が前年比で4割ほど減少しており、企業における派遣の手控え感と同時に人件費抑制からパート・アルバイトにシフトする傾向がつかえる。
悪くなっている	-	-	-